

Ⅲ. 「スクーリング」(対面指導)とは?

※「スクーリング」: 「遠隔学習課程」の受講者が居住する地域の自治体、「中国帰国者支援・交流センター」がある自治体に於いては「支援・交流センター」が、国の委託を受けて計画し月1回2時間程度行う対面指導のこと。受講料は無料。

1. 「スクーリング」の目的

「スクーリング」とは、センターの遠隔学習課程受講者(以下、受講者)に対して、自学中心の通信教育だけでは不足しがちな点を補うために行われる対面型の学習活動で、希望者に対してだけ実施するものです

センターの遠隔学習課程は、教材と課題のやりとりを通じて帰国者の自学自習を支援していますが、センターの講師と受講者とは対面してコミュニケーションをとることができません。スクーリングの最大の目的は対面方式のコミュニケーションを通じて支援を行うという点にあります。スクーリングの主な目的は以下のような点にあります。

- ① 一人で学習を進めるために必要な自学自習の指導を行う
- ② 自学自習の結果出てきた疑問点等について直接講師に質問する
- ③ 講師や他の受講者と会話練習を行う
- ④ 学習成果を講師との実際のコミュニケーションを通して発展的に運用する
- ⑤ 定期的に対面の学習機会を持つことによって、規則的な学習のペース作りをする
- ⑥ 講師や他の受講者と一緒に学習することによって学習継続への意欲や喜び、刺激、帰属感等を得る

一方、通信教育や自学自習には独自の利点があります。例えば、時間的に束縛されなくなかったり、人から学ぶのではなく自力で学習を進めたかったりする人には特に向いているでしょう。したがって、スクーリングはこのような受講者の受講動機も視野に入れ、希望者だけを対象とすべきであり、希望しない人に無理強いすべきものではありません。

2. 「スクーリング」の実施形態

「スクーリング」の実施の形(指導形態、実施場所、頻度等)は、それぞれの地域の受講者の状況と計画する側の条件によっていろいろな形が考えられます。受講者の人数や受講コースの種類、いつ受講を始めたか、また居住地が集中しているか分散しているか等でスクーリングの実施の形も地域によって一様ではないでしょう

① 学習形態

受講者の人数やコースの種類、組み合わせによってスクーリングの指導形態は変化します。例えば、一斉授業形式、複式、個別対応、及びそれらの複合が考えられます。

※スクーリングの実施モデルについては【資料3】参照

② 実施場所

受講者宅、または教室を借りる。教室を借りる場合、受講者と講師と実施主体の条件を考え併せ、場所を選ぶことになります(公民館、団地の集会所、公共の施設など)。

③ 頻度、講義時間

標準学習期間3ヶ月(最長6ヶ月)コースは6回、6ヶ月(最長12ヶ月)コースは12回を上限とします。また、1回当たりの講義時間は概ね2時間を目安とします。ただし、受講者や実施主体の事情により集中的な指導を行うこともできます。

スクーリング希望者がかなり多い場合は、体制上の問題等で、頻度が少なくなる可能性もあります。

3. 「スクーリング」の主な学習活動

「スクーリング」は、基本的には、教室での学習のようにその場で学習を進めるものではありません。遠隔学習課程は本人の自学自習を前提としており、「スクーリング」では、前回の「スクーリング」から今回の「スクーリング」までの間に受講者が自学自習した内容を対象に行うのが基本です。そして、その学習活動は、実施コースの目的、受講者自身の性格や学習スタイル、学習適性、進度、担当する講師の持つ条件によって何が適当かは違ってきます

例えば、会話に重点があるコースの場合(「おしゃべり話題コース」「近隣交際コース」「就職対応コース」など)は、できるだけ日本語によるコミュニケーションを多く行う活動を行います。また、知識に重点があるコースの場合、(「運転免許学科試験対応コース」「職業訓練校入校『数学』コース」など)は、中国語による解説も必要になります。このように、受講コースの目的にあった活動を行なうことが必要です。各コース毎の活動例については「X. 『遠隔学習課程』各コースの概要とスクーリング例」をご覧ください。

全コースに共通して行われる主な学習活動の型には、以下のようなものが考えられます。

- a. 学習の進行状況、今後の計画等について話し合い(学習相談)
- b. 添削課題やテキスト中の練習問題についての復習や質問(解説)
- c. 受講生の弱点箇所の復習(練習)
- d. 実践的・発展的な練習(模擬練習・模擬試験)
- e. 学習仲間や講師との情報交換、交流

上記のような活動はスクーリングの時間の中の部分を構成します。以下はスクーリング全体の流れのイメージです。

【初回「スクーリング」を想定した流れ】(①～④は初回のみ、⑤以降は毎回)

- ① スクーリングのオリエンテーション…スクーリングとは?(クラス授業との違い)、規則、実施日等。

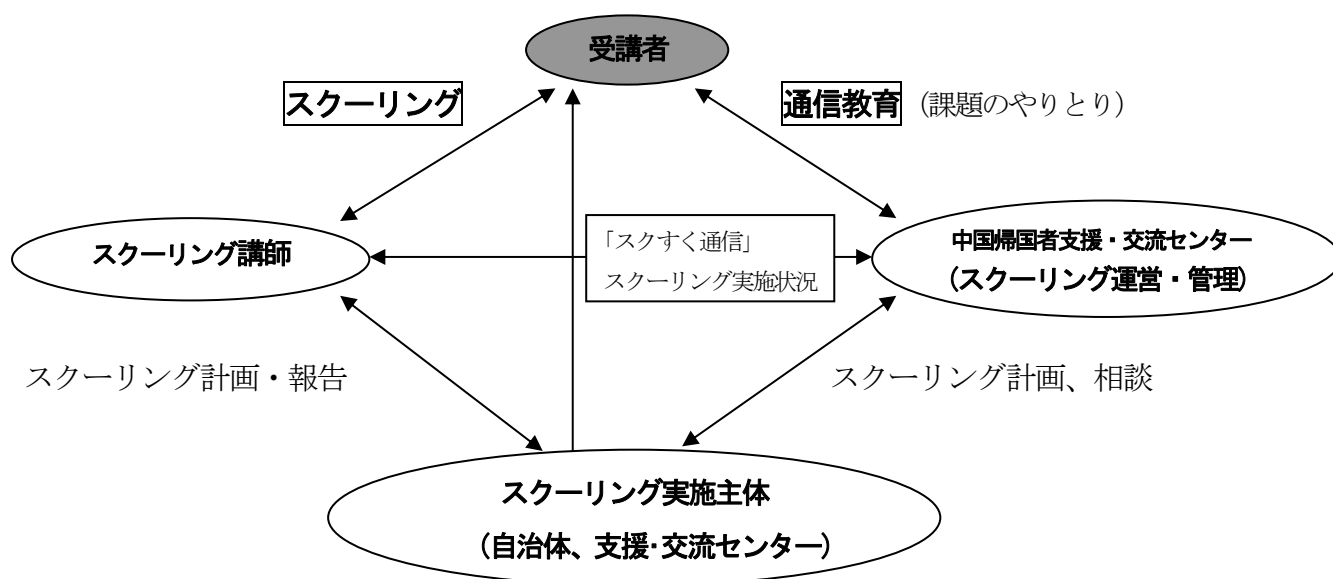
- ② 受講者の受講目的と受講コースの目的が合っているかどうかを確認する。
- ③ 受講コースの教材の使い方や学習の進め方について、確認する。
- ④ 受講コースのスクーリングでどんなことをする予定か、受講者と相談して大体の活動について方針を決める。※ 活動内容については学習を進めながら変更の可能性有り
- ⑤ 今日は何をするか受講者と相談して決める。(2回目以降は：何をするようになっていたか確認し、その学習状況をみる。その結果、受講者の学習計画、方法の改善が必要かどうか講師は把握し⑧に結び付ける)
- ⑥ 学習活動をする。
- ⑦ 次回の日程を決める。(確認する)
- ⑧ 次回のスクーリングまでに自宅で何をしてくるか受講者と相談して決める。
- ⑨ 次回のスクーリングの時間に何をするか決める。

4. 「スクーリング」でつながる支援者ネットワーク

全国の遠隔学習課程受講者の学習がスムーズに進むように、スクーリングを介して、センター、スクーリング実施主体（自治体、支援・交流センター等）、スクーリング講師が連携を取りながら受講者の学習をバックアップしていきます。スクーリング講師とセンター（各コースの添削担当者）は受講者の自学自習を助けるという同じ目的を持っていますが、支援できる範囲も方法も違う部分を持っています。それぞれの立場を補い合い連携することで、受講者の学習支援を充実させていくことを目指します

① ネットワーク内のそれぞれの関係

[遠隔学習支援ネットワーク]



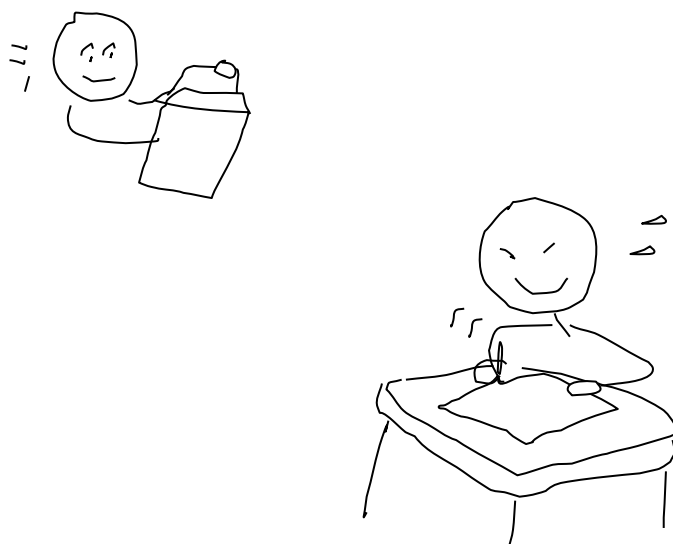
② 情報交換媒体「スクすく通信」

「スクすく通信」はセンター側からの連絡事項、事例紹介、問題共有等を行う定期的な「通信」です。スクーリング講師の皆さんから日々送られてくる「スクーリング状況報告」に書かれている、参考になるようなスクーリング活動事例や、スクーリング実施上でおこる様々な問題を共有できる場です。「スクすく通信」は、定期的に郵便にて情報発信しています。

③ その他

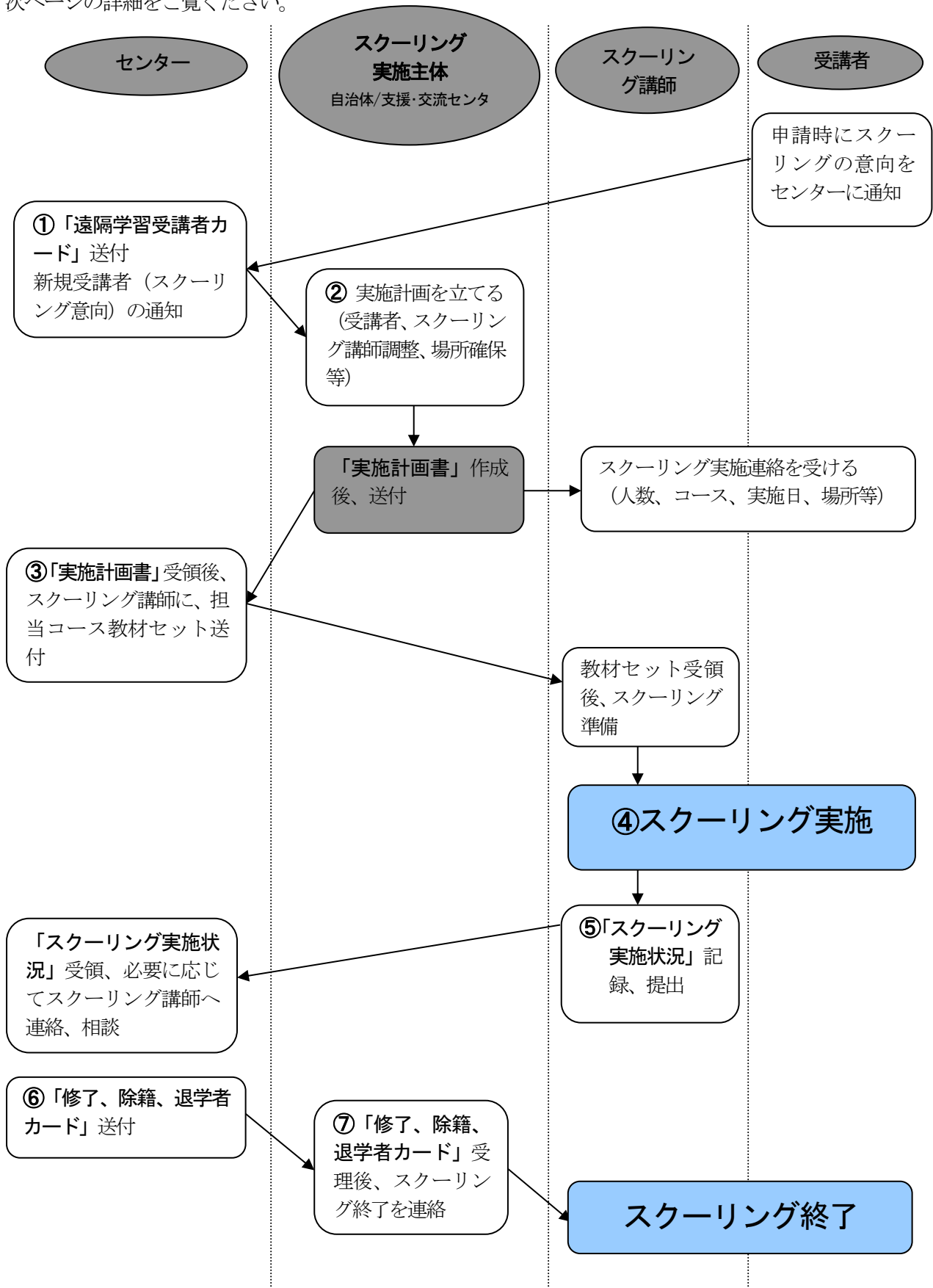
- ・スクーリング講師のための実施マニュアル「スクーリングの手引」を講師・実施主体に送付します。
- ・毎年、スクーリング講師（予定者含む）のための研修会を実施します。

※スクーリング実施までの主な流れについては、以下の【資料2】参照



【資料2】スクーリング実施までの主な流れ

以下は、遠隔学習課程の受講を開始してからスクーリングを終了するまでの流れ図です。スクーリング実施主体（自治体／支援・交流センター）によっては一部やり方の違う地域もあります。①～⑦については次ページの詳細をご覧ください。



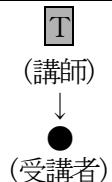

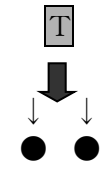

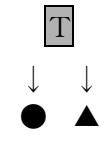

【資料3】

《スクーリングの実施モデル》

《スクーリング実施の前提条件》

- 実施期間：受講者が受講コースを修了するまで、或いは、受講コースの最長学習期間まで（最長学習期間はコースによって異なるが6ヶ月から1年）、但し本人の希望により、修了後1ヶ月まではスクーリング実施可。
- 実施の頻度と時間：概ね月1回のペースで2時間程度を目安とするが、講師や受講者、予算等の条件により、頻度や時間は地域の状況にあったものにする。コースによっては、短期集中型のスクーリングも考えられる。
- 対象者：実施主体側の提示する条件で受講を希望する遠隔学習課程受講者。

《月1回・1人の講師が対応する場合の実施モデル》

コース 人数	形態・イメージ (例)	1回の対応時間・方法 (例)	備考
単コース 1人	(1コース：●) 1対1 (講師)：(受講者) 	2時間 個別対応 	対象となる受講者のニーズに沿って対応できる完全密着型の支援
単コース 複数人	(1コース：●) 1対2～3人 	2時間 個別・一斉対応 (寺子屋型) 	開始時期のズレによる進度の違いや一人一人の学習適性による違いにも対応できる支援方法。近隣交際や就職対応コースなどの会話学習では、進度が多少違う受講者同士でも、会話練習や話題交流など日本語で一緒に話す機会を作った方が効果的な場合もある。従って、学習相談や進度に合わせた個別対応を行ったり、一部クラス型のグループ活動も取り入れることもできる。
複数 コース 複数人	(2コース：●▲) 1対2人 	複数コースで2時間 複式対応 (山の分校型) 	2つのコースへの対応は、個別対応のほか、複式で対応する方法もある。複式対応は、講師が一人の受講者に対応している間に、もう一人の受講者には自習できる課題を与えておき、これを繰り返しながら講師が受講者の間を行ったり来たりする方法。2コース程度なら、物理的条件の他に、学習内容（2コース間の類似度や中国語対応が必要な学習内容か等）を考慮に入れ、個別対応と複式対応のどちらかを選択することができる。